

平成20年度第3回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成21年3月23日(月) 15:00 - 17:30

場 所：京都大学宇治研究所本館E棟3階 防災研究所所長室(E-320D)

配付資料

1. 平成20年度第2回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録
2. 京都大学防災研究所自然災害研究協議会出席者名簿
3. 第45回自然災害科学総合シンポジウムパネルディスカッションの原稿
4. 自然災害研究協議会提言(案)
5. 平成20年度河川災害に関するシンポジウム
6. 地区部会報告
資料 6-1 北海道地区、6-2 東北地区、6-3 関東地区、6-4 中部地区、
6-5 関西地区、6-6 西部地区
7. 自然災害協議会データベース委員会議事次第
8. 自然災害協議会平成20年度使用状況
9. 平成21年度自然災害研究協議会新委員
10. 平成21年防災研究推進特別事業経費計画調書

・議事に先立ち、石原和弘 防災研所長より、共同利用・研究拠点として協議会のさらなる役割向上を期待されている等の挨拶があった。

・間瀬総務担当から前回議事録(資料1)の確認と出席者(代理)の確認(資料2)があった。

議 事：

1. 平成20年度の活動報告

(1) 総務担当報告(資料4, 資料5)

自然災害研究協議会提言(案)についての報告・説明があり、議論された。意見は以下の通りであった。

- ・この提言は、資料3のパネルディスカッションのテープ起こしから内容をまとめたものである
- ・だれに向かったの提言か
- ・提言というより宣言に近い
- ・その他、文章を修正した方がよい

以上のことから文書を修正し、委員の意見を聞くこととした。意見は2週間(4月10日をめど)でいただき、最終案を固めることとした。

(2) 地区部会報告(資料6)

北海道地区部会：総会・特別講演を含む活動報告がされた。

東北地区部会：災害科学研究集会・地区部会総会、ならびに、公開シンポジウムを含む活動報告がされた。また、出版費の増加とその節約方法の検討も報告された。

関東地区部会：市民科学オープンフォーラムを含む報告がされた。宣伝効果があり、244名の参加者があった。

中部地区部会：共催事業、協賛事業、H21活動予定が報告された。

関西地区部会：BCP推進を中心とした自然災害フォーラム、防災教育の市民向け講習会を含む活動報告がされた。

(3) データベース担当報告(資料7)

当日開催されたデータベース委員会の報告がされた。

- ・人材データベースの利用目的を検討している。
- ・登録しようとする人の認証をどのようにするか？
- ・災害データの状況。

次回の協議会までに、人材データベース構築について、以下の点を考慮して提案する。

- ・突発災害調査研究の人選に限って利用する場合、なにができて、どうするか？
- ・対象者を広げるとすると、何を目的に、どのようにするか？

2. 平成20年度予算執行状況(資料8)

- ・残があるので、必要な委員は会議終了までに申し出ることとした。
- ・来年度、印刷費の増加が想定される場合、総務まで報告する。
- ・各地区部会の活動費は確保したうえで、予算に凸凹がでることもあることを確認をした。
- ・増加の要求に応じて、予算の申請を行う。

3. 平成21年度委員の交代について(資料9)

委員の継続、交代を確認した。

4. 平成21年度の計画について

(1) 第46回自然災害科学総合シンポジウム

(2) 防災研究推進特別事業経費の申請について

- ・上の2つについては関連している。
- ・ワーキンググループで詳細は今後詰めることとする。
- ・メンバーは、現時点で岡田、西上、藤吉、牧、盛川、間瀬とするが、

希望者を入れることとする。

- ・文科省の委員には入ってもらいたい。

5. その他（メモを含む）

- ・H21 第1回協議会は5月に予定している。
- ・日程調整のメールを送るので、最も多くの委員が出席できる日を設定する。
- ・突発災害調査研究報告や自然災害科学総合シンポジウム論文集を各資料センターに送る。資料を集める重複を避ける。

文責：間瀬